

◇ 3月の天文暦 ◇

日時	記	事
1 17	木星	月の南 2° 通過
2 8	金星	最大光度 -4.3 等星
5 13	水星	東方最大離角
6 20	月	最近
7 11	望	
9 0	天王星	衝
14 9	下弦	
18	彼岸	
19 12	月	最遠
21 11	春分	(太陽黄経 0°)
22 14	朔	



シルエットとなって黒いループに見え、他の位置では明るく見えている。殊に主体の北東端は、線条の吸収条がむらがって、ぼけて見えているようである。更にその外側には、主体と同じ中心と軸で、暗い楕円形のひろがりの第三構造があって、南西端で主体と関連している模様である。

この星雲と非常によく似た構造をした星雲として、電波源が観測されている NGC 5128 があるが、今回の NGC 2685 ではまだ電波源は同定されていない。

主体の廻転軸は、主体の長軸に直角な軸であるらしく、主体周囲の線条或は渦状構造の廻転軸は、主体長軸に沿った方向の対称な軸と見られ、対称二軸をもったこのような星雲の構造を解明するのは、大変むづかしいことであろう。近年星雲の進化と形成に、磁場が重要な要素として考えられることは周知のことであるが、この方面の知識は何等かの手がかりとして期待されるのではなからうか。

星雲めぐり (2)

星雲分類型のいづれにもあてはまらない、変わった形の星雲は多数存在するが、写真の NGC 2685 は特に珍しい形をしている。(α=8^h 52^m, δ=58° 59', M₁₀₀=-18^m.2, 写真主体の長軸約 1'.5)

中心の無定形紡錘形主体は、端から見た SO₁ (ハブル分類型) に似ていて、パンケーキのような球状体とも、葉巻のような楕円体とも考えられる。この主体のまわりを、ら線条がとり巻いていて、これが主体の周囲に完全な円陣を作っているのか、渦状構造を形成しているのか、また主体のどこかで接続しているのかつまびらかでない。この線条は、明るい主体を背景とする位置では、

東京における日出入および南中 (中央標準時)

Ⅲ月	夜明		日出		方位	南中		高度	日入		日暮
	時	分	時	分		時	分		時	分	
1	5	38	6	12	- 8°9'	11	54	46°8'	17	36	18 8
11	5	26	5	59	- 4.2	11	51	50.3	17	44	18 16
21	5	12	5	45	+ 0.7	11	48	54.2	17	53	18 25
31	4	55	5	30	+ 5.5	11	45	58.3	18	1	18 34

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出, 右側は日入に対する値)

分		分		分		分		
鹿	児	島	+36	+38	鳥	取	+22	+22
福	岡	+37	+38	大	阪	+17	+18	
広	島	+29	+30	名	古	屋	+11	+12
高	知	+25	+26	新	潟	+4	+3	
仙	台	-3	-5	青	森	-2	-5	
札	幌	-3	-9	根	室	-20	-26	

◇ 3月の日月惑星運行図

